

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-348012

(43)Date of publication of application : 05.12.2003

(51)Int.Cl.

H04B 7/26

H04Q 7/22

H04Q 7/28

(21)Application number : 2002-148897

(71)Applicant : NTT DOCOMO INC

(22)Date of filing : 23.05.2002

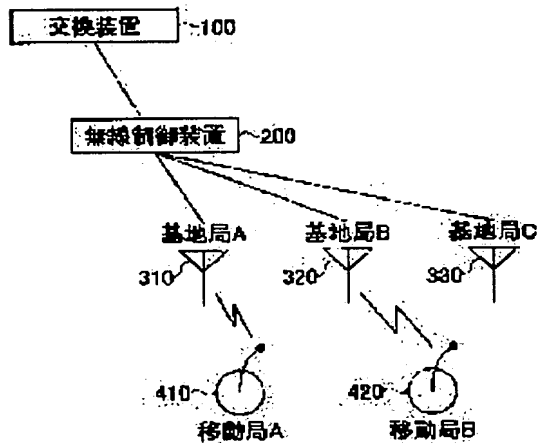
(72)Inventor : HANAKI AKITO  
ISHII MINAMI  
ANDOU HIDEHIRO  
NAKAMURA TAKEHIRO

## (54) METHOD FOR CONTROLLING TRANSMISSION POWER IN SOFT HANDOVER AND RADIO CONTROLLER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for controlling transmission power of a DSCH (downlink shared channel) for preventing degradation of quality of the DSCH in DHO (diversity handover).

SOLUTION: The above problem is settled by a method for controlling transmission power characterized by controlling a transmission power offset of a common channel for a downlink packet on the basis of relation between combination of downlink radio line quality of the respective base stations and a communication rate of the common channel for the downlink packet in the method for controlling the transmission power for controlling the transmission power offset of the common channel for the downlink packet to be transmitted from a base station selected at a mobile station in soft handover in which the mobile station in a mobile packet communication system is simultaneously connected with a plurality of base stations.

本発明の送信電力制御方法が適用される  
移動パケット通信システムの構成例図

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

01.04.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-348012

(P2003-348012A)

(43)公開日 平成15年12月5日(2003.12.5)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード*(参考)
H 0 4 B 7/26	1 0 2	H 0 4 B 7/26	1 0 2 5 K 0 6 7
H 0 4 Q 7/22			1 0 7
7/28		H 0 4 Q 7/04	K

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 11 頁)

(21)出願番号 特願2002-148897(P2002-148897)

(22)出願日 平成14年5月23日(2002.5.23)

(71)出願人 392026693

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ  
東京都千代田区永田町二丁目11番1号

(72)発明者 花木 明人

東京都千代田区永田町二丁目11番1号 株  
式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ内

(72)発明者 石井 美波

東京都千代田区永田町二丁目11番1号 株  
式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ内

(74)代理人 100070150

弁理士 伊東 忠彦

最終頁に続く

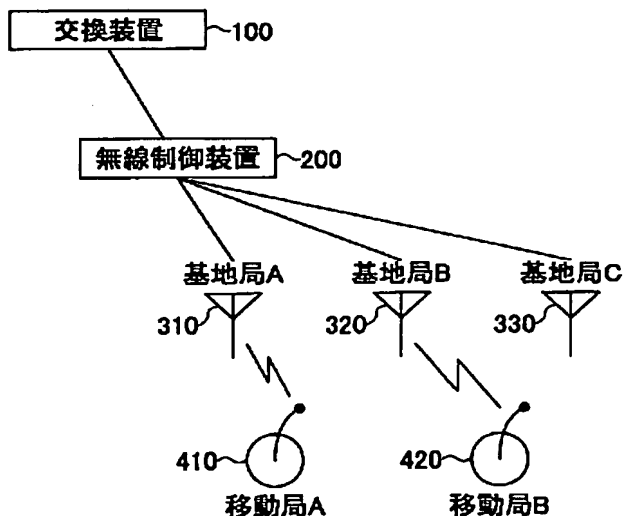
(54)【発明の名称】 ソフトハンドオーバー時における送信電力制御方法および無線制御装置

(57)【要約】

【課題】本発明の課題は、DHO中において、DSCCHの品質の劣化を防ぐことのできるDSCCHの送信電力制御方法を提供することである。

【解決手段】上記課題は、移動パケット通信システムにおける移動局が複数の基地局に同時に接続されるソフトハンドオーバー時に、前記移動局で選択した基地局から送信される下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御する送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴とする送信電力制御方法にて解決される。

本発明の送信電力制御方法が適用される  
移動パケット通信システムの構成例図



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】移動パケット通信システムにおける移動局が複数の基地局に同時に接続されるソフトハンドオーバー時に、前記移動局で選択した基地局から送信される下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御する送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴とする送信電力制御方法。

【請求項 2】請求項 1 記載の送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局間の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴とする送信電力制御方法。

【請求項 3】請求項 1 記載の送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴とする送信電力制御方法。

【請求項 4】請求項 1 記載の送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局の下り無線回線品質を用いて、前記下り無線回線品質の特徴を求め、その求めた下り無線回線品質の特徴と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴とする送信電力制御方法。

【請求項 5】請求項 1 乃至 4 いずれか 1 項記載の送信電力制御方法において、前記下り無線回線の品質を、前記各基地局から送信されるパイロット信号の受信電力強度から求めることを特徴とする送信電力制御方法。

【請求項 6】移動パケット通信システムにおける移動局が複数の基地局に同時に接続されるソフトハンドオーバー時に、前記移動局で選択した基地局から送信される下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御する無線制御装置において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせを保持する下り無線回線品質記憶手段と、前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートの情報を取得して保持する通信レート記憶手段と、前記下り無線回線品質記憶手段により保持されている該

当基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記通信レート記憶手段により保持されている前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを決定するオフセット決定手段とを備えたことを特徴とする無線制御装置。

【請求項 7】請求項 6 記載の無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局間の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分値を記憶することを特徴とする無線制御装置。

【請求項 8】請求項 6 記載の無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分値を記憶することを特徴とする無線制御装置。

【請求項 9】請求項 6 記載の無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局の下り無線回線品質を用いて、前記下り無線回線品質の特徴を求め、その求めた下り無線回線品質の特徴を記憶することを特徴とする無線制御装置。

【請求項 10】請求項 6 乃至 9 いずれか 1 項記載の無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記基地局から送信されるパイロット信号の受信電力強度を前記基地局の下り無線回線品質とすることを特徴とする無線制御装置。

【請求項 11】請求項 6 乃至 10 いずれか 1 項記載の無線制御装置において、前記オフセット決定手段は、下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを、前記下り無線回線品質記憶手段により記憶されている該当基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記通信レート記憶手段により記憶されている前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとに関連付けて登録するオフセット設定テーブルを備え、前記オフセット設定テーブルの参照により、該当基地局に対する該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを決定することを特徴とする無線制御装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ソフトハンドオーバー時における送信電力制御方法および無線制御装置に係り、詳しくは、移動パケット通信システムにおける下り共有チャネルの送信電力制御方法に関する。

【0002】また、本発明は、そのような送信電力制御方法に従って下り共有チャネルの送信電力を制御することのできる無線制御装置に関する。

【0003】

【従来の技術】近年のインターネット関連技術の発達に

10

20

30

40

50

に伴い、インターネットで音楽配信などの種々のサービスを提供できるようになってきている。このようなサービスでは、下り回線の伝送量が非常に多くなる。第3世代移動通信システムの国際規格を検討する3GPP (3rd Generation Partnership Project) では、下り回線の伝送量が多いサービスを実現するために、下り回線におけるパケットアクセス方式の1つとしてとして、1つの下りチャンネルを複数の移動局で共有するダウンリンクシャドチャンネル (DSCH: Downlink Shared Channel、以下DSCHと略記) が採用されている。図11は、移動パケット通信システムにおいて、DSCHを用いてパケット伝送を行う場合の従来技術を説明するための図である。同図に示すように、下り回線 (基地局A310から移動局A410に向かう回線でダウンリンクとも呼ばれる) においては、移動局A410宛のデータを送信するためのDSCH (太線) と、該DSCHに付随し、上記移動局A410と無線制御情報をやり取りするための物理チャンネルA-DPCH (A-DPCH: Associated-Dedicated Physical Channel (点線)、以下、本例では、ADCHと略記する) の2本の無線チャンネルが別々に用いられており、また、上り回線 (移動局A410から基地局A310に向かう回線でアップリンクとも呼ばれる) においては、移動局A410からのデータと制御用の情報が1本の物理チャンネル (DCH: Dedicated Control Channel (実線)、以下、DCHと略記) に多重されて基地局A310との通信が行われる。下り回線におけるADCHは、制御用の信号のみを送信するため、比較的低速な回線速度に設定され、上り回線におけるDCHは、制御用の信号と、ユーザデータも共に送信するため、下りのADCHよりは、高速な回線速度が設定される。また、DSCHに関しては、高速なデータ通信を行えるようにADCHと比較すると高速な回線速度が設定される。

【0004】このような下り回線に設定されるDSCHを用いてパケット通信を行うには、基地局から、データ送信前の無線フレームにて、DSCHによる送信を開始する旨がまず移動局に通知される。そして、この通知を受けた移動局が、上記基地局からのDSCHの受信を開始する。基地局は複数の移動局に対して、ADCHを通じてDSCH送信の通知を行い、またDSCHを通じてユーザデータの送信を行うことで、複数のユーザのデータを時間多重して伝送する。上述した図11の場合、基地局A310からの下りのADCHと、DSCHがそれぞれ1本設定されているが、DSCHは常時設定されているわけではなく、DCHによって通知を受けた場合のみDSCHが設定される。

【0005】さらに、従来の技術では、ADCH及びDCHの回線品質を向上させるためダイバーシチ受信 (一般に、ソフトハンドオーバー (Soft Hand Over: SHO) またはダイバーシチハンドオーバー (D

iversity HandOver: DHO) 等と呼ばれ、以下では、「DHO」を用いて説明する) と呼ばれる技術が適用される。図12は、図11に示す従来技術にこのDHO技術を適用した場合の、移動パケット通信システムでのチャンネル構成例を示す図である。同図において、下り回線においては、基地局A310と、基地局B320の形成するセル間の境界付近の所定領域において、移動局A410は複数の基地局 (この場合、基地局A310とB) から送信されるADCHを受信する。また、上り回線のDCHは、複数の基地局 (この場合、基地局A310、B) によって受信される。このとき、DSCHに関しては、複数のユーザデータが時間多重されるため、データの送信タイミングを制御するのが難しい。そのため、DSCHの送信においては、DHOは適用されず、Active Set (移動局-ネットワーク間で確立されている無線リンク) 内の1基地局 (セル) からしか送信されない。

【0006】さて、無線アクセス方式の1つであるCDMA (Code Division Multiple Access) のように、符号を用いてチャンネルを構成する移動パケット通信システムにおいては、システム容量の低下を防止することができるという観点から、送信電力制御が重要な要素技術となっている。例えば、ITU (国際電気通信連合) で策定されたIMT-2000 (International Mobile Telecommunications 2000) で採用されたW-CDMAシステムにおいては、高速送信電力制御と呼ばれる技術が適用される。図13は、このW-CDMAシステムにおけるパケット伝送 (DSCHを用いてのパケット伝送) 時の送信電力制御の動作を説明するための図である。図13において、移動局A410では、基地局A310から送信されるADCHの信号電力対干渉電力比 (以下、SIRと略記) を計算 (測定) し、その結果とあらかじめ定められている目標値 (=ターゲット値) とを比較する。その比較で、目標値より低ければ、基地局A310に対して、ADCHの送信電力を増加させるように、DCHにて、送信電力コマンドを送信する。逆にADCHのSIRが目標値よりも大きければ、ADCHの送信電力を下げるように送信電力コマンドをDCHにて送信する (同図 ~ のステップ)。

【0007】また、基地局A310では、DCHのSIRを計算 (測定) し、移動局A410と同様に、あらかじめ定められた目標値 (ターゲット値) とDCHのSIRとを比較し、ADCHにて送信電力制御コマンドを送信する (同図 ~ のステップ)。このようにして、移動局A410と基地局A310は、互いの送信電力を調整し合い、常に最適な送信電力を保つよう動作する。また、DSCHの送信電力は、ADCHの送信電力値にあらかじめ定められた値 (オフセット値) を乗算した値に基づき制御される。これは、ADCHの送信電力が移動局A410から送信される送信電力制御コマンドに基づ

き、常に最適に制御されていると考えられ、また、ADCHとDSCHが同時に送信されるため、基地局と移動局間の無線回線状態はADCHとDSCHで同一とみなせるので、このような制御方法となっている。なお、オフセット値は複数の基地局を制御する無線回線制御措置から該当の基地局へと通知される。

【0008】図14は、図13に示す従来技術にDHOを適用した場合の送信電力制御の動作を示した図である。同図において、DHO中、移動局A410は基地局A310、Bから送信されるADCHを受信して合成した後、SIRを計算（測定）し、その結果とあらかじめ定められている目標値（＝ターゲット値）とを比較する。そして、比較結果に基づいて送信電力制御コマンドを生成して、DCH経由でそのコマンド基地局A310、Bに送信する（同図～のステップ）。また、基地局A310では、DCHのSIRを計算（測定）し、移動局A410と同様に、あらかじめ定められた目標値（ターゲット値）とDCHのSIRとを比較し、ADCHにて送信電力制御コマンドを送信する（同図～のステップ）。

【0009】このような従来のDHO中の送信電力制御動作では、移動局A410が基地局A310、Bから送信されたADCHを受信合成してSIRを決定し、送信電力制御を行うため、例えば、基地局B320より到来する信号の受信電力が基地局A310より到来する信号の受信電力より優勢であった場合、移動局A410がDCHにて送信する電力制御コマンドは、主に基地局B320と移動局A410の無線リンク品質に対して発せられるようになり、基地局A310のみから送信されるDSCHの送信電力制御に誤差が生じ、DSCHの品質が一定に保たれなくなってしまう。この問題に対処するため、DHO時の送信ダイバーシティ技術であるSSDT（Site Selection Diversity Transmission）の適用が考えられている。SSDTとは、DHO中の移動局が各セルのCPICHの受信電力を測定し、その中から最も高い受信電力を与える1つの基地局を「プライマリ」として決定し、上りの制御信号（SSDT信号）を用いて各基地局に報告することで、プライマリの基地局からのみ下りリンクを送信させるという技術で、これにより、下りの干渉量の増大を防ぐことが可能となっている。なお、上記プライマリ以外の基地局（受信電力が高くない）は、「ノンプライマリ」として分類される。

【0010】3GPP TR25.841では、DHO中に、上記SSDTの技術を用いてDSCHの送信電力を制御する方法が記載されている。これには、移動局から通知されるSSDT信号に基づいて決定されたプライマリの基地局と、ノンプライマリの基地局のDSCH送信電力オフセットを切り替える方法が記載されており、換言すれば、基地局がプライマリか否かによって送信電力オフセット値を切り替えDSCHの送信電力を制御する

というものである。さらに、上記方法のオフセット切り替え利得を評価した結果が、次の文献に示されている。

【0011】文献：花木等“W-CDMA方式のDSCHにおけるSoft HandoverエリアでのDSCH電力オフセット制御法の検討”2002年電子情報通信学会総合大会B-5-136。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述したような従来の移動パケット通信システムにおいては、DHO中の移動局と、当該移動局宛にADCHを送信している基地局との位置関係を考慮せずに、DSCHに対して常に一定のプライマリ送信電力オフセット、ノンプライマリ送信電力オフセットで送信電力制御している。そのため、DSCHが所要品質を満足しない、あるいは過剰品質となり基地局のシステム容量を圧迫するといった問題があった。

【0013】本発明は、上記のような問題点に鑑みてなされたもので、その課題とするところは、DHO中において、DSCHの品質の劣化を防ぐことのできるDSCHの送信電力制御方法を提供することである。

【0014】また、そのような送信電力制御方法に従ってDSCHの送信電力制御が行える無線制御装置を提供することである。

【0015】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明は、請求項1に記載されるように、移動パケット通信システムにおける移動局が複数の基地局に同時に接続されるソフトハンドオーバー時に、前記移動局で選択した基地局から送信される下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御する送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴としている。

【0016】請求項2記載の本発明によれば、前記送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局間の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴としている。

【0017】請求項3記載の本発明によれば、前記送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴としている。

【0018】請求項4記載の本発明によれば、前記送信電力制御方法において、前記各基地局の下り無線回線品

質の組み合わせにしたがって抽出された基地局の下り無線回線品質を用いて、前記下り無線回線品質の特徴を求め、その求めた下り無線回線品質の特徴と前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御することを特徴としている。

【0019】請求項5記載の本発明によれば、前記下り無線回線の品質を、前記各基地局から送信されるパイロット信号の受信電力強度から求めることを特徴としている。

【0020】また、上記送信電力制御方法に従って送信電力制御が行える無線制御装置は、請求項6に記載されるように、移動パケット通信システムにおける移動局が複数の基地局に同時に接続されるソフトハンドオーバー時に、前記移動局で選択した基地局から送信される下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを制御する無線制御装置において、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせを保持する下り無線回線品質記憶手段と、前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートの情報を取得して保持する通信レート記憶手段と、前記下り無線回線品質記憶手段により保持されている該当基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記通信レート記憶手段により保持されている前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて、該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを決定するオフセット決定手段とを備えたことを特徴としている。

【0021】請求項7記載の本発明によれば、前記無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局間の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分値を記憶することを特徴としている。

【0022】請求項8記載の本発明によれば、前記無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の差分を求め、その求めた差分値を記憶することを特徴としている。

【0023】請求項9記載の本発明によれば、前記無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記各基地局の下り無線回線品質の組み合わせにしたがって抽出された基地局の下り無線回線品質を用いて、前記下り無線回線品質の特徴を求め、その求めた下り無線回線品質の特徴を記憶すること特徴としている。

【0024】請求項10記載の本発明によれば、前記無線制御装置において、前記下り無線回線品質記憶手段は、前記基地局から送信されるパイロット信号の受信電力強度を前記基地局の下り無線回線品質とすることを特徴としている。

【0025】請求項11記載の本発明によれば、前記無線制御装置において、前記オフセット決定手段は、下り

リンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを、前記下り無線回線品質記憶手段により記憶されている該当基地局の下り無線回線品質の組み合わせと、前記通信レート記憶手段により記憶されている前記下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとに関連付けて登録するオフセット設定テーブルを備え、前記オフセット設定テーブルの参照により、該当基地局に対する該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットを決定することを特徴としている。

10 【0026】本発明によれば、移動局宛の制御信号を送信している各基地局からのパイロット信号受信強度の組み合わせと、下りリンクパケット用共通チャネルの通信レートとの関係に基づいて該下りリンクパケット用共通チャネルの送信電力オフセットが求められるので、その求められたオフセット値は、現時点における基地局と移動局との距離と電力関係を反映したものとなる。すなわち、基地局や移動局周辺における電波環境を正確に把握した状態でDSCCHに対する送信電力オフセットが求められるようになるので、DHO中であってもDSCCHの送信電力制御誤差を軽減することができ、DSCCHの品質劣化を防ぐことができる

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0027】図1は、本発明の送信電力制御方法が適用される移動パケット通信システムの構成例を示す図である。

【0028】図1において、この移動パケット通信システムは、交換装置100と無線制御装置200、基地局装置A310～C330（以下、基地局という）が階梯をなして構成される。移動局A410は基地局A310と、移動局B420は基地局B320と無線回線を介して通信を行う。また、移動局A410は、DHOエリアにおいて、基地局A310と基地局2からの信号を受信する。無線制御装置200は、基地局A310～C330に対して、DSCCHに対する送信電力オフセット値の指定や、移動局の移動速度やフェージングの影響を考慮してDHOブランチの追加及び削除の指令を出し、複数の基地局（本例では、基地局A310～C330）を統括・制御する制御装置である。

40 【0029】図2は、図1に示す移動パケット通信システムにおいて無線制御装置200の機能ブロックを示す図である。図2において、この無線制御装置200には、幹線網側の交換装置100から到来する移動局ユーザ宛の情報を一時的に格納するユーザデータバッファ11が備えられ、このユーザデータバッファに格納されたデータはキューイング処理部12に出力される。キューイング処理部12では、基地局に出力するユーザデータの転送を行う際のデータ送出順序の制御が行われる。例えば、FIFO(First in First out：先入れ先出し)キューイング方式、Priority（優先度）キューイング方式等

に基づいて基地局へのデータ送出順序が制御される。DHO制御部14では、移動局からのDHOブランチの追加・削除要求に応じて、基地局を制御してDHOブランチの設定（基地局へDHOブランチの追加・削除を指示）を行い、記憶部15では、定期的に、または無線制御部16からの報告要求により移動局から報告される通信中基地局の下り無線品質（具体的には、パイロット信号受信電力強度）の情報が記憶される。オフセット計算部13は、上記記憶部15に蓄積されている情報を用いて、DSCH送信電力のオフセット、すなわちプライマリ送信電力オフセットとノンプライマリ送信電力オフセットを求め、その結果を基地局に通知する。基地局では、無線制御装置から通知されたプライマリ送信電力オフセット、もしくはノンプライマリ送信電力オフセットをDSCH送信電力にかけて送信する。

【0030】図3は、図2に示す無線制御装置200内の記憶部15に蓄積される参照用テーブルと情報の項目を示す図である。同図に示すように、この記憶部15には、

移動局毎のパイロット信号受信電力の組み合わせ（DSCHの通信レート情報を含む）

オフセット設定用テーブル

が蓄積される。上記は、Active Set内の複数の基地局から送信されているパイロット信号受信電力強度の組み合わせと、DSCHの送信局である基地局から送信されているDSCHの通信レートが移動局毎に管理される。ここで、Active Set内の複数の基地局（全セル）のパイロット信号受信電力強度の組み合わせについて説明する。

【0031】移動局から報告されたActive Setの全セルのパイロット信号受信電力強度は、まず、あらかじめ定義された分類テーブルによるクラス分けがなされる。図5は、このクラス分けの際に使用するパイロット信号受信電力分類テーブルの一例である。同テーブルに示すように、Active Setの全セルのパイロット信号受信電力強度は、電力の強度に応じて4段階にクラス分け（A～Dの4段階）される。例えば、Active Set数を8とした場合、クラス分け後のパイロット信号受信電力強度は、図7に示すように、「AABDDCBC」という組み合わせが得られる。また、上記同様、DSCHの通信レートも、64kbps、128kbps、256kbps、384kbpsの4段階にクラス分け（A～Dの4段階）される（図6参照）。上記は、上記に関連付けられて求められたプライマリ送信電力オフセット値と、ノンプライマリ送信電力オフセット値が所定のテーブルに登録される。本例では、このテーブルをオフセット設定テーブルという。

【0032】次に、上記オフセット計算部13での送信電力オフセットを決定する処理手順について、図4のフローチャートを参照しながら説明する。

【0033】図4において、オフセット計算部13は、キューイング処理部12より、送信対象のユーザIDの通知を受ける（S1）と、そのユーザID（ここでは、「090xx」とする）に該当する移動局のパイロット信号受信電力強度の組み合わせ（本例では、図7に示すAABDDCBCという組み合わせが得られたものと仮定する）と、クラス分けされたDSCH通信レートを記憶部15より取得（S2）する。前述したように、移動局から報告されたActive Setの全セルのパイロット信号受信電力強度は4段階に、DSCHの通信レートも4段階に分類される。ここで、Active Set数を8と仮定した場合、オフセット設定テーブルは、 $4 \times 4 \times 8 = 128$ 個の設定値をもつことになる。オフセット計算部13は、上記パイロット信号受信電力強度の組み合わせ（ ）と、DSCHの通信レート（ ）を取得すると、上記オフセット設定テーブルを参照（S3）して該当のDSCH送信電力オフセット値を求める。図8は、オフセット計算部13で参照されるオフセット設定テーブルの一例を示した図である。例えば、移動局から報告されたパイロット信号受信電力強度の組み合わせが「AABDDCBC」、DSCH通信レートのクラスがAである場合、DSCH送信電力オフセット値として、プライマリオフセットA1dB、ノンプライマリオフセットA2dBが得られる（矢印）。なお、同テーブルの、「No」の欄には、1～128の設定番号が示され、「Active Set内のパイロット信号受信電力強度の組み合わせ」の欄には、クラス分け後の当該受信電力強度の組み合わせが示され、「DSCH通信レートクラス」の欄には、クラス分け後のDSCH通信レートが示され、「送信電力オフセット値」の欄には、登録されたプライマリオフセットおよびノンプライマリオフセット値が示される。オフセット計算部13内は、上記のようにして求めたDSCH送信電力オフセット値を基地局と移動局に通知（S4）する。

【0034】さて、通常、基地局と移動局との間の距離が一定の場合、高速パケットチャネルには高い送信電力が必要であるが、低速パケットチャネルには低い送信電力しか必要とならない。一方で、パケットチャネルの伝送速度が一定の場合、基地局と移動局との間の距離が長ければ高い送信電力が必要であるが、該距離が短ければ低い送信電力しか必要とならない。本発明では、Active Set内の基地局のパイロット信号受信強度の組み合わせと、DSCHの速度を表す通信レートを利用することで、基地局と移動局との間の距離と電力関係を把握し、その結果に基づいてDSCHに対する送信電力オフセットを制御することを最大の特徴としている。

【0035】したがって、上記のようにして求められたDSCHに対する送信電力オフセットは、現時点における基地局と移動局との距離と電力関係を反映したものとになり、基地局や移動局周辺における電波環境を正確に把

10

20

30

40

50

握した状態でのDSCHに対する送信電力オフセットの制御が実現できる。その結果、DHO中であってもDSCHの送信電力制御誤差を軽減することができ、DSCHの品質劣化を防ぐことができる。

【0036】なお、上述の実施形態は本発明の好適な実施の一例であり、これに限定されるものではない。本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変形実施が可能である。例えば、Active Setの全セルのパイロット信号受信電力強度の組み合わせを以下のような手順で求めてもかまわない。

【0037】（実施形態の変形例1）オフセット計算部13は、上記Active Set内の基地局のパイロット信号受信強度（例： $n=3$ 個）を記憶部から取得すると、その取得した $n$ 個のパイロット信号受信強度から、 $r$ 個抽出した場合のパイロット信号受信強度の組み合わせを $z$ 組（例： $Z = {}_n C_r = {}_3 C_2 = 3$ 組）取り出し、取り出された $z$ 組のパイロット信号受信強度の組み合わせと、DSCH通信レートとに対応付けて計算されて登録されているDSCH送信電力オフセット値を、オフセット設定テーブルを参照して求める。ここで、求められるプライマリ送信電力オフセット値とノンプライマリ送信電力オフセット値（＝DSCH送信電力オフセット値）は、例えば、 $z$ 組分得られるDSCH送信電力オフセット値と、所定の閾値とを比較し、その比較結果に基づくDSCH送信電力オフセット値が選択される。図9は、上記実施形態の変形例1において、記憶部15に蓄積されるActive setの全セルのパイロット信号受信電力と、DSCH通信レートの蓄積概念を示す図で、図10は、Active setの全セルのパイロット信号受信電力の一組み合わせと、DSCH通信レートとに対応付けられて登録されているDSCH送信電力オフセット値を示す図である。図10の例では、パイロット信号受信電力の $z$ 組のうち、XX、YYの組み合わせと、DSCH通信レートのクラスAに基づくDSCH送信電力オフセット値（プライマリオフセット値として「A1dB」が、ノンプライマリオフセット値として「A2dB」）が登録されている例を示している。

【0038】（実施形態の変形例2）さらに、Active Set内の基地局のパイロット信号受信強度の差分をとり、その差分とDSCH通信レートとの関係によって送信電力オフセットを求めるような形態であってもよい。また、上記組み合わせで取り出されたパイロット信号受信強度の差分を求め、その差分値とDSCH通信レートとの関係によって送信電力オフセットを求めるような形態であってもよい。また、さらに、上記組み合わせで取り出されたパイロット信号受信強度からパイロット信号受信電力の特徴を示す値を求め、その特徴値とDSCH通信レートとの関係によって送信電力オフセットを求めるような形態であってもよい。

【0039】上記例において、無線制御装置200の記

憶部15の記憶管理機能が、下り無線回線品質記憶手段、通信レート記憶手段に対応し、オフセット計算部の送信電力オフセット算出機能がオフセット決定手段に対応する。

【0040】

【発明の効果】以上、説明したように、本願発明によれば、Active Set内の基地局のパイロット信号受信強度の組み合わせと、DSCHの通信レートとの関係に基づいてDSCHに対する送信電力オフセットが求められるので、その求められたオフセット値は、現時点における基地局と移動局との距離と電力関係を反映したものとなる。すなわち、基地局や移動局周辺における電波環境を正確に把握した状態でDSCHに対する送信電力オフセットが求められるようになるので、DHO中であってもDSCHの送信電力制御誤差を軽減することができ、DSCHの品質劣化を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の送信電力制御方法が適用される移動パケット通信システムの構成例を示す図

【図2】図1に示す移動パケット通信システムにおける無線制御装置の機能ブロック図

【図3】図2に示す無線制御装置内の記憶部に蓄積される参照用テーブルと情報の項目を示す図

【図4】オフセット計算部での送信電力オフセットを決定する処理手順を示すフローチャート

【図5】パイロット信号受信電力分類テーブルを示す図である。

【図6】DSCH通信レート分類テーブルを示す図である。

【図7】記憶部に蓄積される移動局毎のパイロット信号受信電力組み合わせ例を示す図である。

【図8】オフセット設定テーブルの一例（その1）を示す図である。

【図9】記憶部に蓄積されるActive setの全セルのパイロット信号受信電力と、DSCH通信レートの蓄積概念を示す図である。

【図10】オフセット設定テーブルの一例（その2）を示す図である。

【図11】移動パケット通信システムにおいて、DSCHを用いてパケット伝送を行う場合の従来技術を説明するための図である。

【図12】図11に示す従来技術にこのDHO技術を適用した場合の、移動パケット通信システムでのチャネル構成例を示す図である。

【図13】W-CDMAシステムにおけるパケット伝送時の送信電力制御の動作を説明するための図である。

【図14】図13に示す従来技術にDHOを適用した場合の送信電力制御の動作を示した図である。

【符号の説明】

11 ユーザデータバッファ



13

- 12 キューイング処理部  
13 オフセット計算部  
14 DHO制御部  
15 記憶部  
16 無線制御部  
100 交換装置

【図1】

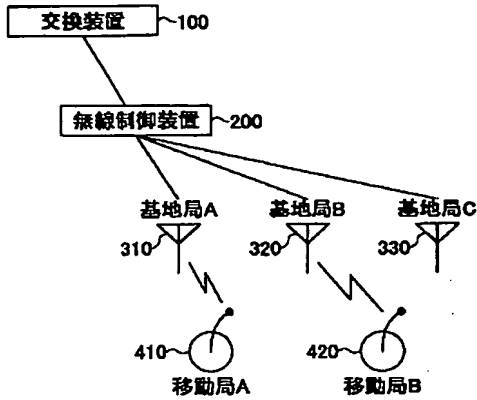
14

- 200 無線制御装置  
310 基地局A  
320 基地局B  
330 基地局C  
410 移動局A  
420 移動局B

【図2】

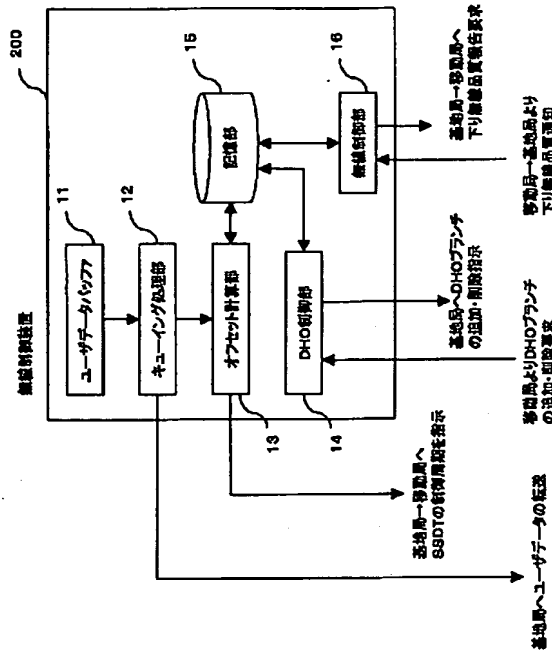
本発明の送信電力制御方法が適用される  
移動パケット通信システムの構成例図

図1に示す移動パケット通信システムにおいて  
無線制御装置の機能ブロックを示す図



【図3】

図2に示す無線制御装置内の記憶部に蓄積される  
データ項目の一例を示す図

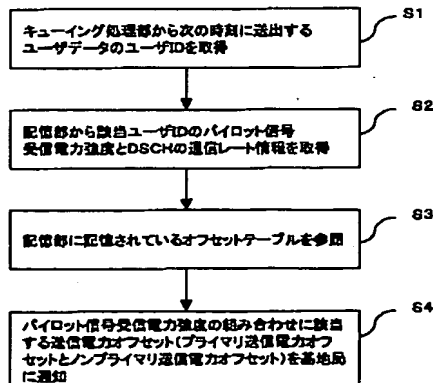
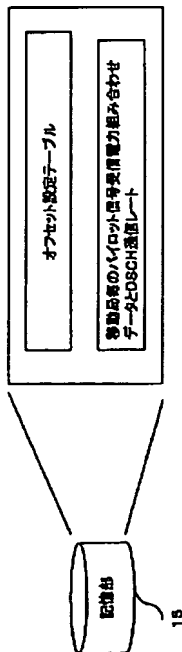


【図4】

【図5】

オフセット計算部での送信電力オフセットを決定する  
処理手順を示すフローチャート

パイロット信号受信電力分類テーブル



パイロット信号受信強度 (dBm)	クラス
$x \geq -50$	A
$-50 > x \geq -70$	B
$-70 > x \geq -90$	C
$-90 > x \geq -110$	D

【図6】

DSCH通信レート (kbps)	クラス
64	A
128	B
256	C
384	D

【図7】

ユーザID	Active Set内の 基地局ID	パイロット信号受信 電力強度 (dBm)	パイロット信号受信 電力強度のクラス
090xx	0011	A1	A
	0012	A2	A
	0013	B1	B
	0014	D1	D
	0019	D2	D
	0021	C1	C
	0022	B2	B
	0023	C2	C

Active Set内のパイロット信号受信  
電力強度の組み合わせ  
↑ AABDDCBC

【図8】

ユーザID	No	Active Set内のパイロット信号受信 電力強度の組み合わせ	DSCH通信レート クラス	送信電力オフセット値	
				プライマリオフセット	ランダムライマリ
090xx	1	...	...	A1 dB	A2 dB
	x	AABDDCBC	A	B1 dB	B2 dB
	x+1	AABDDCBC	B	C1 dB	C2 dB
	x+2	AABDDCBC	C	D1 dB	D2 dB
	x+3	AABDDCBC	D	...	...
	...	...	...	...	...
	128	...	...	...	...

( ) のない基地局は、Active Set内の基地局のうちでDSCHを運用している基地局

【図9】

ユーザID	Active Set内の基地局ID	パイロット信号の受信強度 (dBm)	DSCH通信レート クラス
090xx	0011	XX	A
	0017	YY	
	0018	ZZ	

( ) のない基地局は、Active Set内の基地局のうちでDSCHを運用している基地局

【図10】

ユーザID	パイロット信号受信電力 (dBm)	DSCH通信レート クラス	送信電力オフセット値	
			プライマリオフセット	ランダムライマリ
090xx	XX	A	A1 dB	A2 dB
	YY			

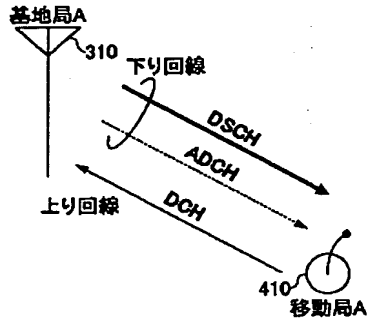
DSCH通信レート分類テーブル

記憶部に蓄積される移動局毎のパイロット信号受信電力 オフセット設定テーブルの一例(その1)を示す図  
組み合わせ例を示す図

記憶部に蓄積されるActive setの全セルのパイロット信号受信電力と オフセット設定テーブルの一例(その2)を示す図  
DSCH通信レートの蓄積概念を示す図

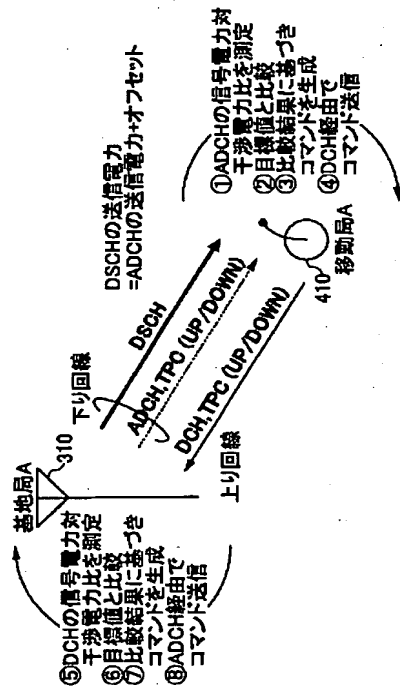
【図11】

移動パケット通信システムにおいてDSCHを用いてパケット伝送を行う場合の従来技術を説明するための図



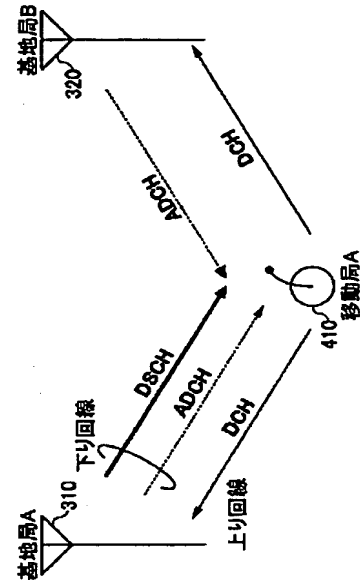
【図13】

W-CDMAシステムにおけるパケット伝送時の送信電力制御の動作を説明するための図



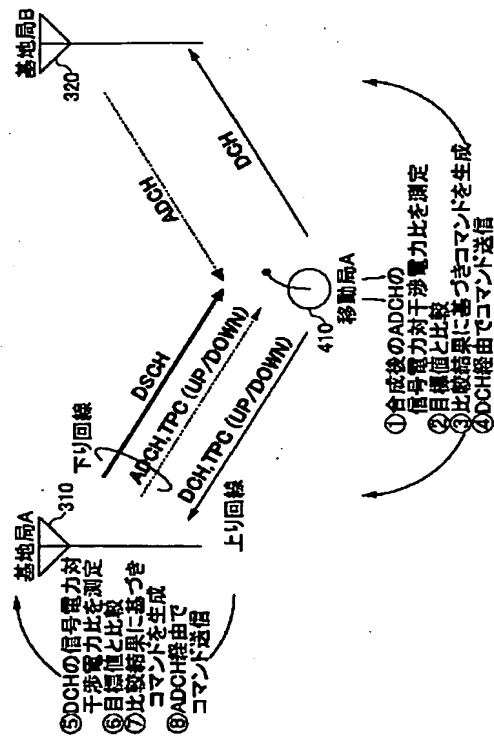
【図12】

図11に示す従来技術にDHOを適用した場合の移動パケット通信システムでのチャネル構成例を示す図



【図14】

図13に示す従来技術にDHOを適用した場合の送信電力制御の動作を示す図



フロントページの続き

(72)発明者 安藤 英浩  
東京都千代田区永田町二丁目11番1号 株  
式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ内

(72)発明者 中村 武宏  
東京都千代田区永田町二丁目11番1号 株  
式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ内

Fターム(参考) 5K067 AA23 BB04 BB21 CC10 DD27  
DD36 DD44 DD45 DD51 EE02  
EE10 EE24 GG08 GG09 JJ37  
JJ39